

議 事 録

(平成 28 年度 第 2 回総合教育会議)

日時：平成 28 年 8 月 22 日 (月)

16:00～17:30

会場：市長室

出席者 笠岡市 市長 小林嘉文
笠岡市教育委員会 教育長 浅野文生
教育委員 廣井滋季 谷 喜一郎 三谷信恵 石井啓式
事務局 福尾教育部長ほか

事務局 それではただ今より、平成 28 年度第 2 回笠岡市総合教育会議を開会いたします。

開会に当たりまして、小林市長から御挨拶をいただきます。

小林市長 (市長挨拶)

事務局 ありがとうございます。続きまして、浅野教育長より御挨拶をお願いいたします。

浅野教育長 (教育長挨拶)

事務局 ありがとうございます。

引き続きまして、議事に入らせていただきます。

まず、「小・中一貫教育について」でございます。前回の会議を受けて、教育委員会としての考え方を整理しましたので、それをまずお伝えしたいと思います。

浅野教育長 お手元の 2 枚ものの資料の最後のところを御覧ください。教育委員会の意見として、1 点目が学力に特化した小・中一貫は賛成できないということ。2 点目が連携教育の推進や強化をやっていただきたいということ。3 点目が人を呼び込むために教育を売りにするよりも、もっと子どもたちのことを第一に考えていただきたいということ。4 点目は一貫校だけ特化してそれを上げたら全体が上がるということが理解できない。笠岡市全体の教育のレベルアップを図っていただきたいということ。5 点目が義務教育学校は小・中両方の教員免許が必要なはずであるということ。6 点目は笠岡西中学校が 1 クラスになると子どもの関係が固定化する。統廃合を考えた時も、もっと流動性がある中で社会性を身に付けてもらいたいという思いだったこと。7 点目

はどうして小・中一貫にすると笠岡市に愛着を持ってもらえるようになるのか分かりにくいということ。8点目はメリットやわくわく感が全く感じられない。今の学校でも十分郷土愛を教えているということ。9点目は副担任を付けていただけるなら、このままで副担任を付けてもらって、本採用の先生をもっと引っ張って来てもらった方が良い。何億もお金を掛けて建物を造ってするほどのことでもないということ。10点目はマンションに誰が入って来るか分からないという問題もあるし、「敬業館」という言葉もあまり認知されていない。そして、子どもは仕事も含め、将来に夢を持って勉強しているということ。これらが、この前の意見の総括とまではいきませんが、部分的なところで全体の共通した意見というところでお示しをさせていただいております。全体的には小・中一貫は、かなり厳しいのではないかという教育委員会の意見でございます。以上でございます。

事務局 それでは、意見交換をお願いしたいと思います。

小林市長 まず、この資料は7月13日の協議結果資料ですよね。私は、今日初めてこの資料を見ました。

浅野教育長 教育委員さんへも今日お渡しをいたしました。

小林市長 この資料は単純にまとめたものですよ。

浅野教育長 小林市長の最初の意見から始まって、各委員さんの意見をまとめております。

小林市長 こういうものは、できるだけ事前に出すべきだと思います。一言で小・中一貫は難しいという表現をされていますが、1か月以上も経って難しいと言われてもですね。議事録は1日で直ぐできると思いますが、皆さんの意見が一致しなかったのかどうか分かりませんが、1か月以上も放置しているのはどういうことですか。

浅野教育長 議事録はいつ頃報告していますか。

事務局 市長の決裁はいただいております。1週間以内には起案しております。

小林市長 議事録は直ぐにできるものですし、第一に議事録はお互いに議事を交換したものであるべきです。こういう意見に対しては、こういう返事をしたというのがちゃんと残っているはずですよ。先程、教育長が教育委員会としての意見を述べられましたが、そのことに対して私自身お答えをしているはずですよ。一方的に言われたということにはなっていないと思います。

 ですから、一部は既に返事をしていると思います。これは、またやらないといけないのですか。

浅野教育長 今、教育委員会としての意見をお話ししましたが、資料の前の方には小林

市長の考え方も記述しています。

小林市長 それから、6月の市議会で教育長自身が小・中一貫校は基本的に賛成だと述べられています。時間軸の問題はおっしゃっていましたが、小・中一貫校は賛成ですとはっきりおっしゃっています。教育長が賛成しているにもかかわらず、教育委員会の4名の委員が反対しているという理解でよろしいですか。

浅野教育長 方向性としては一致しているというお話しをしました。

小林市長 時間軸の問題だけだと言われました。

浅野教育長 教育委員会としては、7月13日に協議をして今の段階で小・中一貫をもってくるのは非常に厳しいという考えです。方向性は一致しています。

小林市長 私も市議会の議事録を読み返しましたが、基本的には賛成だということが残っています。

浅野教育長 賛成とまで言っているかどうか分かりませんが、議会の中で市長と教育長の意見が分かっても問題がありますし、基本的な考え方とその方向性としては一貫校ができれば良いということで答弁をしております。

小林市長 学力に特化していないということは、この間の会議でもお伝えしています。何度も言うように、議事録というのは回答した内容も入っているはずですが、資料には入っていません。ですから同じ議論をしなければならなくなるのです。面白くありません。1時間しかないのですから。

 連携教育に関しても、外浦のように小・中が隣接する形でやっても良いし、「敬業館」のように同じ学校内でやっても良いし、「敬業館」が成功するかどうか分かりませんが、できるだけ準備はするつもりです。連携教育の推進も当然ながらやっていきます。これも話をしたと思います。

 それから、人を呼び込むために教育を売りにするよりも、もっと子どもたちのことを第一にということも当然の話です。そういう話もしたと思います。人を呼び込むというのは、商売のように人を呼び込むのではなくて、ここの学校に子どもを学ばせたいというのを他県、或いは市外から増やすという意味で、自然に人が集まってくるということです。これは悪いことではないと思います。そういう学校のコンセプトに賛同する保護者の方が自分の子どもを通わせたいと思って「敬業館」に通わせるようになります。だから、最初の小・中一貫校は利便性の高い駅前に造りたいのです。子どもたちのことと利便性を第一にして人が集まってくるような学校にしたい。今日も後で話すと思いますが、中学校に上がる時に笠岡市内で20名前後の子どもたちが流出しています。他の学校に行ってしまいます。中・高一貫校へ行ったり、広

大附属に行く訳です。倉敷駅に近いから青陵へ行ったりする訳です。そういった子どもを止めないといけないのです。そのための小・中一貫校でもあるのです。

それから、一貫校だけ特化してそれを上げたら全体が上がるということが理解できない。笠岡市全体の教育のレベルアップを図っていただきたいという意見ですが、これは方法論です。皆さん御存知のとおり満遍なく平等に一つ一つ底上げする方法もありますし、一箇所上げることによって他も引っ張り上げるという方法もあります。どちらが良いとか悪いとかという問題ではないと思います。笠岡市が満遍なくやってきたから岡山県でトップになったかということとそうでもないし、いろんな考えがあって良いと思います。

義務教育学校は小・中両方の教員免許が必要なはずというのは、当然の話です。岡山県の教育委員会とも県知事ともそういう話をして、そういう先生を派遣してもらう事になる訳ですから。今から準備すれば間に合うと思います。

西中学校が1クラスになるという問題も、大井小学校と今井小学校を一緒にして西中に小・中一貫校を造るというように、中学校区で考えることも1つの考え方です。そういう方向で進めても良いと思います。そうすれば、これからまた生徒が集まってくる可能性もあります。自然な形で統廃合を進めないで地元の人達は抵抗する訳です。小・中一貫校にしてしっかりと郷土愛を育みますという説明で統廃合の話をするれば賛成する保護者の方も増えてくると思います。今の2クラスを今後も維持できると思いますか。何か手を打たないといけないのです。その1つの起爆剤が「敬業館」ではないですかというアイデアをぶつけさせていただいているのです。

それから、どうして小・中一貫にすると笠岡市に愛着を持ってもらえるようになるのか分かりにくいという意見ですが、これは9年間同じ先生と仲間と学ぶ中で、じっくりと物の見方・考え方が育まれます。また、カリキュラムの組み方も工夫できると思います。毎年20人も出ていく子どもたちに地元愛があるのかというと、ずっと笠岡で勉強する子どもよりは地元愛が薄くなると思っても不思議ではないと思います。そういう優秀な子どもたちを笠岡に止めるという意味でも小・中一貫校、或いは中・高一貫校でも良いと思いますが、そういったことが子どもたちを引き止める1つの模索になればという思いでやっております。

わくわく感という感情的な言葉は僭越です。わくわく感を作り出すのは我々の方です。我々が教育委員会と一緒にわくわくしなければいけな

いのです。どんな器を作っても、わくわくになるかどうかは自分たちの問題です。自分たちのパッションの問題です。

副担任を付けることですが、副担任を全部付けると言ったとたん10人のクラスにも副担任を付けるのだという話にもなるし、付けるとなると笠岡市が負担しなければいけないコストも増えます。できるだけ集約して副担任を付けていくようにしたら良いと思います。

それから、何億も掛けて造るほどのことでもないということですが、学校を造るとなるとお金は掛かります。統廃合して空いている土地ができれば、それを住宅地として売却できるわけですから、全てお金が掛かるということでもありません。メリットも出てくると思います。取りあえず1つやってみて、それが上手くいくようならもう1つというように、住民や保護者の理解を得ながら慎重に進めていったら良いと思います。

「敬業館」は歴史の勉強をすれば出てきますし、誇りを取り戻すという意味で「敬業館」という名称を考えました。他のところでは「誠之館」や「学芸館」などがありますが、笠岡にも江戸時代に「敬業館」があったのです。200年前に使っていた言葉を復活させて笠岡に対するの愛着とかアイデンティティを呼び覚ましたいという思いで使わせていただいております。笠岡小学校には「敬業館」の額が掛かっているわけですから、笠岡小学校を卒業された方なら御存知だと思います。

浅野教育長 教育委員会の中で我々の理解まで落とし込めなかったのが、西中学校も一貫校、それからその学区の中にある「敬業館」も一貫校という、この点がすっきりしませんでした。両方の一貫校が本当にできるのかなという思いです。それから、中・高一貫校については中学校の子どもたちが、それこそ千鳥へ入って笠岡を活性化していくという点においては、良い考えだという意見がありました。

小林市長 ちょうど中・高一貫については、笠岡高校の鳥越校長からのコメントがありますので御紹介します。

本校の状況を説明させていただきます。岡山操山中学校、倉敷天城中学校、岡山大安寺中学校、中等教育学校の新規設置、私立との競合、西備地区の少子化などを要因として、本校は3年連続で若干名の定員割れを起こしています。小学校から中学校へ進学する段階で100名弱の生徒が国立中・県立中・私立中に流れ、成績上位の生徒も減少し、進学実績にも影響しています。

これは、この間聞いたのですが笠岡高校始まって以来の進学実績で、この3月は国立大学進学が70名しかいなかったそうです。毎年220名程度の内、

約半数の生徒が国立大学に進学していましたが、歴史上始まって以来の低レベルだったそうです。今言ったとおりで20名程度の優秀な子どもが中学校に上がる時に、そして中学校から高校に上がる時にも外に出てしまうということで、毎年数十名が笠岡市からいなくなっています。そういう意味で笠岡高校のレベルを維持し、さらに上げるために1つのアイデアとして中・高一貫校としての岡山県立笠岡中学校を造ったらどうかという意見が出ています。これはたぶん1学年40～50名ぐらいで、この人たちが中心になって笠岡高校を盛り上げていく起爆剤になります。そして、3年間しっかりと勉強に励みそのままスライドして笠岡高校に上がって、中軸となって勉強を引っ張ってくれるようになる中学校を造ってはどうかということです。

それから聞いた話ですが、井原高校や矢掛高校はもっとひどい状況にあるそうです。鳥越校長自身も井原高校の出身だそうです。当時は岡山大学だけでも20名程度進学していたそうですが、今は国立大学に進学するのが20～30名程度だそうです。笠岡高校よりも早く井原高校と矢掛高校は統廃合の対象になる状況にあります。そういう意味で井原とか矢掛から優秀な生徒をスクールバスとか色々な手法を使って集めることをしないと共倒れになりますよというアドバイスをいただきました。笠岡高校を維持するために、そういう案も出ています。

それで、私は笠岡西中学校に関しては柔軟性を持って考えています。義務教育学校という形で小・中一貫校にするけれども、校舎は別で今井小学校であり、大井小学校であり、校舎はそのまま維持します。それで、西中に上がって小・中一貫校にしていく方法もあるし、小学生の子どもたちに一挙に西中に来てもらって授業を受けてもらい、合わせてスクールバスを出すようなことも1つの方法であると思います。これは議論したら良いと思います。色々なケースをやってみながら2～3年して検証し、問題点の対策を講じたら良いと思います。

「敬業館」については駅前というロケーションもあり、ここは1年から9年までしっかりと同じクラスメイトで上がっていくことでやってみたらどうかと思います。

石井委員 先程、「敬業館」が駅に近いということで市外から来ると言われていますが、「敬業館」に入る間口を広げるということですか。

小林市長 いえ、笠岡市民に限ります。倉敷からであろうと福山からであろうと笠岡市民になってくれれば入れます。

石井委員 結局、笠岡市に引っ越して来ないと入れないということですね。であれば、

別に駅に近くなくてもいいのではないかという気がします。駅前にある必要性があるのでしょうか。

小林市長 親御さんの問題があります。仕事に行ったりしますので駅に近い方が絶対的に条件が良い訳ですし、週末に福山に帰ったり倉敷に帰ったりするでしょうし、感覚的な距離感の問題もあります。駅前にあるから行きやすいとか移りやすいという思いもあるでしょう。

石井委員 「敬業館」で人が来るということが理解できません。「敬業館」に愛着を持っている人がどの程度いるのかわかりません。先日、笠岡小学校に通っている子どもの保護者の方8名程に話を聞いて回りましたが、女性の方などは「敬業館」にあまり関心がないようでした。むしろ笠岡小学校が消えることを心配する意見が多かったです。そのあたりをこれからどのように説明されますか。

小林市長 嫁に来られた方は基本的には卒業生ではないので、愛着はどうかという問題はあります。「敬業館」でないといけないということでもありませんが、やはり教育は中身です。「敬業館」そのものの中身がしっかりしないと間違いなく人は集まりません。「敬業館」という名前だけで人が来るかと言ったら、絶対そんなことはありません。ただし、昔からある名前を復活させて、それに馴染みがある人もいますのでイメージアップの一助にはなると思います。笠岡義務教育学校という名前でも悪くはありませんが、言いやすいしあちこちで噂になりやすいと思います。西の誠之館、東の「敬業館」と言われるようになるかもしれません。

廣井委員 第1回目の協議を受けて未だに理解できないのが、なぜ今小・中一貫校が笠岡に必要なのかということです。教育に特色を持たせることで笠岡の教育のイメージが良くなるという一面は確かにあると思います。教育で考えたときに、最終的にはどこの大学に行くかということだと思います。そう考えた場合には、小・中一貫校よりは中・高一貫校を笠岡に造って進学率の良い学校が笠岡にあるという方が、もっと笠岡の教育のイメージが良くなると思います。

それから、小・中一貫校は9年間を通して郷土愛を育むとか、現在の6・3制にはないカリキュラムの組み方ができるのですが、同じような成果は笠岡市が現在取り組んでいる連携教育をさらに進めていけば出ると思います。

以上のことから、なぜ今小・中一貫校が笠岡に必要なのかということになる訳です。

小林市長 良い大学に行くという点では、中・高一貫校が良いと思います。私もそう

思います。ただ、私が言っているのは笠岡工業高校や笠岡商業高校に進学して地元で就職する人間を沢山作りたということです。私の政策をこのままやり続けるとどうなるかと言いますと、笠岡に企業を沢山誘致しても地元で就職してくれない現象が生まれます。笠岡工業高校には160名の生徒さんがいますが、20名程度が専門学校や大学に進学して140名程度が就職しています。そのうち笠岡に就職している人は、今年の3月で6名です。そして、70名程度が福山や倉敷などの通勤圏内に就職しています。残りが東京、大阪、その他の所に行ってしまう。しかし、地元に残ったこの70名も結婚したり家を建てたりする時にほとんど笠岡を出ます。笠岡は農業振興法などがあるが家が建てにくいので里庄に出て家を建てたりしています。里庄に家を建てて倉敷に通勤するなどしています。そういうことが多く、笠岡に残らないのです。これは大きな問題です。笠岡工業高校を出て笠岡の企業に就職し、両親と一緒に暮らして両親の面倒を見る。そうすれば色々な問題が解決する訳です。そういう循環を作りたいのです。

それから、小学校に進級する6歳の学力の差と小学校から中学校に進級する時の学力の差は幅が違ふと思います。それで中・高一貫校を造って優秀な生徒を集めてしっかりと勉強させて良い大学に行かせると、これは鳥越校長の理論ですが、周辺の中学が全て潰れますということです。つまり、周辺の小学校6年生の生徒会長が皆ここに集まる訳です。中・高一貫校に集まりません。そうすると周りの中学校に生徒会長がいなくなります。だからみんな悪くなるということです。格差がどんどん生まれてくるのです。これは鳥越先生の理論です。中・高一貫校を造るとそういうリスクもあります。

しかし、私も敢えて岡山県立笠岡中学校に挑戦してみるべきだという考えを持ち始めています。これは副市長が強く言っていることでもあります。

この6歳の時の学力の差が小さい時に、その差を縮めるというのが私の考えです。そのために副担任を付けるのです。30人とか25人のクラスで副担任を付けるのは、優秀な生徒を作るためではなくて、ボーとしている生徒を繋がせて勉強させるためです。これを9年間やるので必ずレベルアップします。中学に上がっても九九ができない生徒もいますので、そういうことがないようにして、少なくともこの辺の工場でちゃんと働けるような人間を作らないといけないのです。それが小・中一貫校でないと駄目なのです。国も基本的にそういう考え方です。

廣井委員

そういう副担任を付けるとか学力の差を縮めるということは、小・中一貫校でなくてもできると思います。現在の学校に副担任を付けて同じようにサ

ポートしてやれば一貫校と同じレベルで中学校を卒業することができるのではないのでしょうか。

小林市長 それをやるだけの財力がありません。それをやるとなると全部をやらないといけないでしょう。

廣井委員 当然です。

小林市長 副担任は全て笠岡市の負担になりますから、全部の小・中学校に配置することはできません。やりたいけどできません。

廣井委員 そうした場合に、市長がおっしゃる「敬業館」という小・中一貫校だけで副担任を付けると、他の学校の子どもたちはどうなりますか。あなた方が小・中一貫校に入らないからということで終わりますか。

小林市長 そういうことはありません。これが良ければ徐々に増やしていきます。一度にはできませんが、笠岡の財力が付いて来れば徐々に増やしたいと思いません。

廣井委員 それだけの教育格差を生んだときに、笠岡小学校区の保護者は「敬業館」によって教育内容が濃くなる訳ですから当然納得すると思いますが、それ以外の学校に通っている子どもたちを持つ保護者は納得するのでしょうか。教育委員会としても皆さんが納得しないと進められません。

小林市長 間違いなく成功するというイメージを持たれると、多くの学区から声が出るかもしれませんが、東京なんかではそんなことにはなっていません。

廣井委員 私が言いたいのは、格差を生んだときに今までと同じレベルの教育しか受けることができない保護者達に納得していただけるかなということです。

小林市長 格差が生まれるならば徐々に増やしていきます。住民や保護者の方々から要望があれば、どういう計画で増やしていくか相談しながらやっていきます。

谷委員 笠岡西中学校区に2つの小・中一貫校を造るというお話をされていましたが、前回も申し上げましたように友達関係とかが固定化してしまうということが納得できません。我々の方針からすると小学校から中学校に上がると何人か人が増えて友達関係も広がっていくような、そういう流動性を求めている、子どもが育っていく上でここは本当に必要な部分だと思います。でも、笠岡西中学校区の一貫校はずっと1クラスになってしまいます。

小林市長 笠岡西中学校で一貫校をする場合、今井小学校と大井小学校の子どもたちが一緒になりますから、中学校の生徒の一部は「敬業館」に抜けて中学校の生徒は減りますが、小学校の子どもたちは増えます。

谷委員 増えますけど1クラスです。

廣井委員 小学校から一緒にしたら、9年間同じクラスになります。

小林市長 極端に言いますと、15人が6年間一緒に勉強するのではなくて、30人か40人が一緒に勉強する環境になります。そうすると、ソフトボールのチームも作れるし、子どもたちにとっては人数が増えて良くなります。

谷委員 私の思いと違うのは、中学校になると子どもたちの間で色々なイザコザ等があって、そうした中でも2クラスあると逃げ場がある訳です。でも1クラスだと本当に厳しい中で3年間過ごさなければならない環境になるのです。このような厳しい環境で子どもたちを育てるのは、如何なものかなという思いです。

小林市長 イザコザの元は、複数の小学校から子どもたちが集まって中学校に上がる時に基本的に生まれるというように国は解釈しています。

ですから、小学校1年生から40人なら40人がずっと一緒に9年間過ごすようにするのです。

谷委員 でも、固定化しています。

小林市長 固定化してしまって、マイナスのファクターもあるかもしれませんが、いじめや不登校などが起きる可能性が減るということで国は小・中一貫校を推薦しています。

谷委員 国としても中学校はクラス替えができる程度の規模が望ましいとしています。ここの部分が上手く機能していない学校ができるということになります。例えば、笠岡西中学校区で将来的に一貫校を造ろうということであれば、話が分かりますが、それを2つに分けるところが理解できないのです。

小林市長 10年後にどうなっているかです。例えば、新吉中学校が10年後にどうなっているかです。吉田小学校、新山小学校がどうなっているかです。自然に新吉中学校と笠岡西中学校が合併するかもしれません。

谷委員 そうなる可能性もあります。ある程度の数を確保できる状況の中で子どもたちが学んでいくという環境が必要です。

小林市長 私もそう思います。今は、消極的な統廃合になっているから反対するのです。前向きな統廃合を提案していきたいという思いで、小・中一貫校はいいのではないかと思っています。

谷委員 それと「敬業館」という小・中一貫校を造った場合に、笠岡小学校区以外からも生徒を呼び込むのでしょうか。

小林市長 できれば呼び込みたいです。定員を何十人にするかによりますが、これからの議論になります。

谷委員 外から来るとなると基本的には保護者の送り迎えという形になりますよね。交通手段を親の送り迎えに頼ることになると集まって来るのでしょうか。

そここのところを考えていただきたいと思います。

小林市長 それは、その後先生方が「敬業館」をどう育てるかによります。中身が大事です。孟母三遷ではありませんが、親は教育によって住む場所を変えます。それはどこでも起きている現象です。笠岡でも毎年 20 名程度の中学生が市外へ通っています。そのために、親御さんは駅まで車で送り迎えをしています。これは大変なことです。

谷委員 それでは、学区がどんどんなくなるということですね。どこの学区からでも「敬業館」に通学していいということになりますね。

小林市長 学区はありますが、笠岡市民であれば北川でも大島でも通うことはできます。もちろん、定員オーバーになればくじ引きになります。笠岡小学校区の子どもはみんな入れますが、それ以外の子どもはくじ引きになります。

後で戻って来てもいいのですが、ここで残りの部分を説明してあげてください。

事務局 それでは、「(2) その他」について御説明いたします。アからエまでありますが、それぞれ現在までの状況を御説明いたします。

まず、「ア 幼・保一体化について」でございます。

(「ア 幼・保一体化について」説明)

小林市長 まず、認定こども園として最初にできるのは神島内浦です。これは方針として認定こども園にしようとしており、場所は選定中です。

それから、和光保育園、つばくろ保育園、金浦保育園などは、『将来的に認定こども園にします』と、はっきり明言されています。

富岡保育園は、『保育園のままいきます』と、はっきりおっしゃっています。

事務局 続きまして、「イ 市営プールについて」でございます。

(「イ 市営プールについて」説明)

小林市長 昨年の9月に50メートルプールの下に穴が開いて底が抜けて使えなくなりましたが、我々笠岡市はそのまま放置して何の対策も取りませんでした。

そのうちに濾過機も壊れ、その結果、この4月の時点で『今年の夏はプールが使えません』という報告を受けました。しかし、それはないだろうということで、そこからのスタートでした。

それで、急きょ濾過機を交換したりして25メートルと幼児用のプールだけは何とか使えるようにしましたが、またいつ濾過器が壊れるか分からない状況です。早くやり替えたいのですが、プールを新しく設置すると約6億円掛かります。国からの補助はありません。笠岡市の貯金は来年の3月の見通

しで約 13 億円ですから、そこまでプールにお金を掛けることができません。ですから、濾過機を新しいものに換えたりしながら、あと 2, 3 年延命するしかないのかなと思っています。誰がどう悪いということではなくて、笠岡市にお金がないということなのです。正直に申し上げまして、これだけは皆さん分かってください。お金がないのです。笠岡市は貧乏なのです。笠岡に企業が沢山あって、就職している人がいて、住民税をみんな払ってくれて、固定資産税を払ってくれさえすれば、こうならなかったのです。これが現実です。これを何とかしようと思っているのです。何とかしなければいけないのです。

だから、プールに関しては、いきなり 6 億円と言われても困るから、たぶん 2, 3 年の単位でこのまま濾過機を換えて補修をしながら維持することを考えないといけません。そのためには、笠岡小学校や中央小学校のプールをもう少し解放してもらって、8 月いっぱい使えるようにして、そこに警備員やインストラクターも付けて安全に子どもが泳げるようにする費用は笠岡市が負担しますから、そういう急場凌ぎをやるしかないと思っています。

事務局 続きまして、「ウ 市立図書館について」でございます。

(「ウ 市立図書館について」説明)

小林市長 最近の図書館は静かに本を読む場所から、今はもう随分変わってきています。私もあちこちの図書館に行きましたが、静かに本を読むスペース、勉強するスペース、ワイワイガヤガヤしゃべっているスペース、お茶を飲んだり弁当を食べているスペースなど、様々な空間があってみんなが集まる場所を作りたいということです。人が集まるためには、朝 9 時から夜 9 時まで年中無休で、いつ来ても空いている状態を作る必要があります。

事務局 続きまして、「エ 笠岡信用組合の奨学金制度に関して」でございます。

(「エ 笠岡信用組合の奨学金制度に関して」説明)

小林市長 お金を笠岡市に預けるから、育英会の運営を笠岡市にやってほしいと言ってきています。つまり、奨学金の対象者 20 名に対して毎月 1 万円の計 20 万円を笠岡市に預けるから育英会の運営をしてほしいということです。子どもたちの選定や管理ができないから笠岡市にやってもらえませんかということです。前提条件は、母子家庭又は父子家庭で保護者の年収が 250 万円以下だったと思います。クラブ活動をやりたいけど家庭の事情でできないような子どもたちに対して、毎月 1 万円を 20 名に出すと言っています。できることなら、笠岡に愛着心があって将来的に笠岡に帰って来て、笠岡で仕事をしてくれるような人をつくりたいと言っています。こういうお話です。

事務局 それから別添資料で鳥越校長から情報提供をいただいています。

小林市長 これは、平成27年春の状況で笠岡市の小学6年生が413名いて、そのうち18名が笠岡高校の学区外の中学校へ進学しているということです。

 そして、笠岡、井原、矢掛などの笠岡高校の学区全体でいうと、1192名のうち91名が学区外の中学校へ進学している状況です。率で言うと7.63パーセントになります。これは、中・高一貫校ができたという理由もありますが、増える傾向にあるということです。

事務局 他には笠岡高校の取組を資料としていただいております。

小林市長 鳥越校長の話だと4年か5年連続して定員割れになると1クラス減らされるそうです。

事務局 以上が「(2) その他」の案件です。御意見がありましたらお願いいたします。

浅野教育長 それで市長、小・中一貫校の考え方が教育委員会の考え方となかなか十分溝が埋まらない状況ですけれども。

小林市長 今説明させていただきましたが、他にまだあればお答えいたします。しっかりと議論は尽くしていかないといけないと思います。他の学校の例を紹介しても良いかもしれません。

浅野教育長 その辺を次の会で再度やるか、それとも市長が以前おっしゃったように第三者組織を作って議論していくという方法もありますので、諮問委員会のようなものを設けて色々な意見を聞いていくのも一つの方法なのかなと思っています。

小林市長 良いですね。私も出前出張ということで、週に1回か2回は必ず地域へ出向いて行って小・中一貫校のお話もさせていただき、皆さんの意見をお伺いするようにしています。

浅野教育長 では、第三者組織といいますか諮問機関といいますか、それを作ってはどうかでしょうか。どうも平行線が続いているような感じもしますし。

小林市長 平行線ですか。何か質問がありますか。

 三谷委員さん、今日は何も質問されていませんので、同意されているものとばかり思っていました。

三谷委員 同意はしていません。

小林市長 どこが異論なのでしょう。

三谷委員 最初に議事録のことを言われていたと思いますが、その最初の時に議会で市長さんが「敬業館」のことをお話しされて、そのことに対して僕の所信表明だから僕が勝手に言っていることだから、それは変えても良いんだよとお

っしやられましたよね。

小林市長 市の方針は、必ずしも私の所信表明とは一致しないという話をしました。
三谷委員 市長さんへは議事録をお渡ししていますか。
事務局 市長の決裁はいただいております。

三谷委員 その時に、失礼ながらも市長さんに、教育委員会で全然お話を聞いていないのに「敬業館」の話をいきなり議会で言われたので私はびっくりして、それは不愉快ですというようなことをこの場で言ったら、市長さんが『私の所信表明なので私が勝手に言えます。別に誰に相談している訳ではありませんし、市役所の職員に相談している訳でもありませんし、私が市民の民意を受けて市長に当選して、こんなまちにしたいですと勝手に言えるのですから知らなくて当然です。私が勝手にしゃべっていることですから、これから議論がスタートするのです。』と言われて、私が失礼しましたと謝ったのですが、まだ議論をしている途中です。議論の途中だから、まだ私は同意していません。

小林市長 どういう点が同意できないのでしょうか。

三谷委員 必要性がまだよく分かりません。わくわくすることを感情論と言われますが、やっぱり何かこれから楽しいことがこれをするによって起きることが、人が寄ってくる一番の起爆剤だと思うし、同意はできていないので議論はこれからだと思います。

小林市長 質問があればお答えします。議論をしていきましょう。

三谷委員 はい、分かりました。

小林市長 ここがおかしいのではないかとこの点があれば言ってください。

三谷委員 おかしいということではありませんが、やはり中学受験、高校受験で青陵とか広大付属に出て行くのが何人も出ているので、それを引き止めなければいけないとおっしゃっていますが、子どもが行きたければ行かせてあげれば良いと思います。金光学園に行って部活がしたい、吹奏楽がしたいと思うのであれば市外に行っても良いし、それをすごく嘆いていらっしやるのがどうしてなのかなと思います。

小林市長 その場合は、金光からも笠岡に来ないといけないのです。惹きつけるだけの魅力が必要なのです。それがないから減り続けているのです。笠岡は5年間で転入・転出で全て負けています。里庄にも矢掛にも負けています。笠岡に魅力がないから一方的に出て行っています。人を惹きつける器ができていないのです。

三谷委員 それを学校でするのか企業でするのかだと思います。

小林市長 両方です。

三谷委員 それを「敬業館」でするのは理解ができないということです。

小林市長 では他にアイデアを出してください。

三谷委員 今のところありません。

小林市長 だから「敬業館」という一つの考え方を出している訳です。他にあれば出してください。検討します。

三谷委員 分かりました。

それから、もう一つはだんだん千鳥の成績が下がっているということですが、私の娘が3月に卒業して国立大学に行きました。難関国立大学を受けたけど落ちた子もいます。他にもすごくいい大学を受けたけど落ちた子もいます。ですから、実際には合格していませんが、そのレベルの大学を受けた子も数名ですがいます。この4年ぐらい前から千鳥に入る子のレベルが低いというよりも、やっぱり千鳥の方も部活動ばかりに一生懸命にならずに勉強の方にも力を入れてくださいと千鳥に再三申し上げています。

だから千鳥の成績が悪いとって嘆くだけではなくて、千鳥自体にも頑張ってもらいたいと思います。

小林市長 それは当然ですが、今度の鳥越校長はしっかり勉強させると言っています。笠岡から逃げるのも止めたいし、外からも呼びたいし、入った生徒のレベルアップもしなければいけません。

三谷委員 私は「敬業館」に同意はしていませんが、議論はしたいと思います。

小林市長 それでは、笠岡の現状ではまずいという認識は持っていただけましたか。先ほど言いましたけど、笠岡はお金がないのです。

三谷委員 お金がないのに何故学校を建てるのですか。

小林市長 人を増やしたいからです。投資です。人を増やすための投資です。

三谷委員 行政マンではないので、その辺りはよく分かりません。

小林市長 皆さんに豊かな生活を味わってもらうために、税収を増やしたいのです。橋を付けるのとは訳が違います。人を増やすための将来への投資です。

では「敬業館」をやったら人が増えるのかというと、それは私だって100パーセントの保証はできません。ただ、現状維持よりは可能性があるから、そちらに投資してみませんかと教育委員会に提案しているのです。それは増える一助になりませんよというのであれば、その理由を示してください。こういう方が良いですよというのであれば、それを示してください。現状維持をしていたら減る一方なのです。

子どもの出生数は約270人です。笠岡市は消滅可能性都市になっています。

残念ながら政府が出した資料にそうなっています。その時に笠岡市の人口は3万4千人になって市として維持ができなくなります。そうするとインフラがどんどん劣化して生活しにくい街になるだけです。銀行に行くのも福山市へ電車に乗って行ってお金を下ろすとか、バスがないから自分の車に乗るしかないとか、病院も倉敷に行ったり岡山に行ったりしないといけなくなります。それが笠岡市の2040年の将来像になる可能性がありますよと言っているのです。

この「敬業館」にひょっとしたら行かせたいという親御さんがいて、福山や倉敷から笠岡に家を構えて通わせようとするかもしれません。或いは、金浦や大島や北川の人たちも「敬業館」に通わせたいと思う。そうすると他の学校も頑張らないといけないという刺激になって、競争という原理が生まれて来るかもしれません。そうすれば全体の底上げができるかもしれない。そういう思いで1つ代表校を造って見たらという思いで話をしているのです。

全てに繋がっています。教育が上手くいかなかったら家族も来ません。笠岡にどんなに企業を誘致できても福山の方が教育レベルが高かったら、福山から旦那に通ってもらいますという人もいるかもしれません。逆に笠岡には企業がないけれど笠岡の教育レベルは非常に高いので、家はここに置いたまま旦那に倉敷の会社に通ってもらいますという人もいるかもしれません。今は逃げて行っているのです。それを取り戻したいだけなのです。そうすれば税収も上がります。そうするとまた再投資できます。それを回すまでの初期投資が掛かるといっているのです。

石井委員 笠岡西中学校区でやる考えはないのですか。「敬業館」に大井の子も今井の子も呼んで「敬業館」の小学部とし、今の西中の所を「敬業館」の中学部にする考えはありませんか。

小林市長 それができたら一番良いです。しかし、初期投資が相当掛かると思います。浅野教育長が良く御存じなのでサイズの的に大丈夫だろうということになれば、ハードルが少し低くなります。

浅野教育長 意外と問題になるのが校名であったり制服だったりします。

小林市長 1つだけお願いがあります。神島の保育所でも言っていますが、神島の保育所というのは高木市長時代からの懸案事項で三島市長の時も解決しませんでした。

私は毎月必ず協議会と保護者の方と会議をもっています。市役所の部長級にも出席してもらってあらゆる角度で全てお答えできるようにして会議を開いています。そして来年度の予算に反映させるため、今年中に必ず決めま

す。候補地も5つありましたが3つまで絞られました。必ず12月までに決めます。それでも万が一、話がまとまらないこともあります。万が一、決まらなかったら私が市長をやっている限り、今後一切話題には出しません。話題に出しても意味がないからです。そのように皆さんにお願いしています。だから、みんなで良い認定こども園を造りましょうと言っています。

私は、だらだらするのは一番嫌いです。その点だけは分かっていたきたい。

ですから、何度でも教育委員会の皆さんと協議しますが、一定の期間を置いても決まらなかったら、その後は一切やりません。ただし、この話はまだ始まったばかりで懸案事項にもなっていませんし、会議も2回目ですのでいつまでにといいことは今の時点では分かりません。これから議論は詰めていきますけれども、私の任期4年の間ずっと定期的にこんな議論はしたくありません。笠岡の教育レベルを上げるためには何が良いか提案してください。教育委員として何ができるか提案してください。面白ければ採用します。

三谷委員 面白ければですか。

小林市長 皆さんの中でこれは面白いというのがあれば提案してください。全力でバックアップします。

三谷委員 一生懸命考えます。

小林市長 しっかり機能させましょう。

三谷委員 はい。

事務局 お時間も超過しております。今後も協議を続けるということで本日の会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。